

障がいのある方への就労支援

～地域で自立した生活を送る環境づくりを目指して～

■問い合わせ先

社会福祉課 ☎(32)8900

一般企業就労への挑戦

市地域自立支援協議会の就労部会では、障がい者の「働く」をテーマに調査・活動をしています。

今回は、障害福祉サービス事業の「就労移行支援事業」と「就労継続支援事業」を経て、一般企業に就職した3名の障がい者の方々に、就職を通して経験したさまざまな思いをインタビュー形式で語っていただきました。

この記事を通して、障がい者雇用の現状や障がい者の皆さまの奮闘ぶりを広くお伝えできればと思います。

就労移行支援事業







障がいのある方が就労に向けたトレーニングを行い、働くために必要な知識やスキルを習得し、就職後も職場に定着できるようにサポートします。

就労継続支援事業（A型とB型）

A型：障がいや難病のある方が、雇用契約を結んだうえで、一定の支援がある職場で働くことができる福祉サービスです。

B型：障がいの程度や、さまざまな理由で雇用契約を結んで働くことが難しい方が、就労訓練などを行います。

一般企業に就職した方々へのインタビュー

	Sさん 物流センター勤務 (知的障がい)	Kさん 図書館勤務 (知的障がい)	Hさん 飲食店勤務 (精神障がい)
自己紹介	<p>➢ 就労移行支援事業での訓練が1年を経過したころ、職業適性検査を受けました。そこで、判断力と継続力が評価され、農家などでの実習を経て、ハローワークから現在の職場を紹介されました。</p> <p>その後、体験実習からトライアル雇用となり、正式採用されました。</p> 	<p>➢ 就労移行支援事業での訓練が1年6か月経過した頃、ハローワークと障害者就業・生活支援センターに登録しました。</p> <p>体力に少し不安があったため、図書館の求人を紹介されました。4時間という勤務時間や通勤に不安がありましたが、すぐに仕事ぶりが認められて6時間勤務に延長されました。</p> 	<p>➢ 以前は一般企業に勤務していましたが、精神疾患を患い、長い間デイケアを利用していました。</p> <p>再度就労を目指し、就労継続支援B型事業を利用しました。約1年間、生活リズムを整えて訓練を行っているうち、自宅の近所で求人が出ていることを知り、施設に相談したうえで面接を受け、採用されました。</p> 
質問			
就職を決めた理由	<p>体験実習をしたとき、この仕事なら自分でもできると思えたからです。</p>	<p>体験実習がとても楽しかったからです。</p>	<p>再び一般企業に就職して、自分でお金を稼ぎたいとの思いがありました。</p>
就職して困ったこと	<p>仕事では特になし。ひとり暮らしなので家事と仕事の両立が大変です。</p>	<p>お客さまに質問された際、うまく答えられず怒られてしまったこと。</p>	<p>飲食店ということもあり、時間帯で忙しさの波があることが課題です。</p>
就職して嬉しかったこと	<p>できる仕事が増えて、任せてもらえる仕事が多くなったことです。</p>	<p>お客さまに「ありがとう」と感謝され、とてもうれしかったです。</p>	<p>自分自身の力で仕事をし、給料をいただけることが一番うれしかったです。</p>
お給料の使い道	<p>好きな電車の本や食費、光熱費などの生活費にあてています。</p>	<p>自分の服や本、美容院代。あとは、生活費として家に入れていきます。</p>	<p>好きな物を買ったり、家族と外食の際にお金を出したりします。</p>
職場での担当業務	<p>ピッキング作業（商品の入荷や仕分け）、棚への商品補充、配送場所別に商品を整え、設置しています。</p> 	<p>書架整理と貸出書物の返却、予約の本を探す業務です。</p> 	<p>調理の補助や皿洗いなどをしています。できるだけ、お客様の案内をできるようにしたいです。</p> 

障がい者の皆さんが一般企業に就職するために、さまざまなサポート機関を利用することができます。また、正式に採用される前に、自分にあった仕事内容であるか、長く働き続けられるかを見極めるために、体験実習を行うことも大変重要です。